



大分市消防団 第1方面隊副隊長  
牧 優治

## 1 消防団を中核とした 地域防災力強化の取組

今後、高い確率で発生するとされている南海トラフ地震をはじめとした大規模な自然災害への備えは急務となっており、特に地域防災の中核を担う消防団の重要性はますます増大しています。

また、地域防災力を強化するためには、地域住民が顔の見える関係をつくること、地域を作る様々な主体の連携、将来の地域防災を担うリーダーの育成などが必要となります。

以上の問題点を踏まえ、本市では「かた昼消防団」の普及に取り組んでいます。

## 2 かた昼消防団とは

かた昼消防団とは、消防団員が子どもたちに防災に関する体験教育を行って、地域の防災力を高めようという取組です。

「かた昼」というのは、大分県の方言で「半

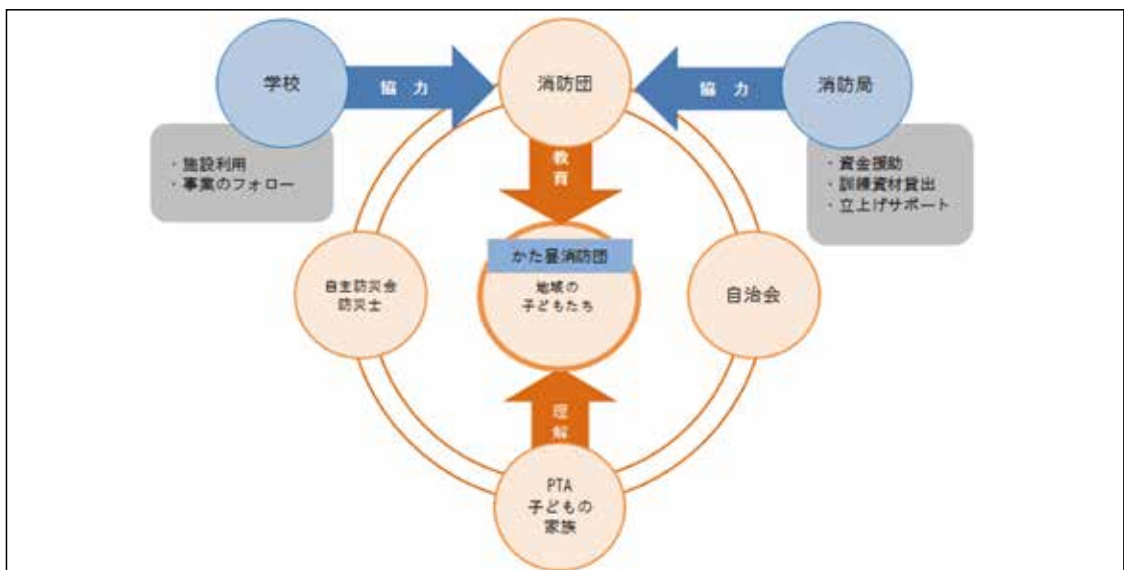
日」を意味しており、半日だけ消防団員として防災の体験をやってみようということです。

かた昼消防団は、平成12年に大分市賀来地区で、地元自治会や中学校、そして消防団の連携のもと発足しました。その名も、「賀来かた昼消防団」です。その活動は現在と同じく、地元消防団である大分市消防団賀来分団が中学生に対し、消防団活動を通じて防災教育を行っております。

その後、大分市消防局が賀来かた昼消防団をベースとした取組の全市への普及を目指し、平成28年度より、訓練経費の助成、訓練資機材の貸し出しなどを行っています。平成30年5月現在、大分市内6か所の地域でかた昼消防団が設立され、活発な活動が行われています。

## 3 活動内容

主な活動内容としては、小型ポンプを使



かた昼消防団の事業イメージ



放水体験の様子



消防団員用防火衣装着体験



腕用ポンプ体験



保護者と一緒に消防団体験

用した放水訓練や、子どもたちが消防車両に同乗し、実際に地域を巡り防火広報を行ったり、婦人会や自治会などに参加いただき、地区の方と一緒に炊き出し訓練を行うなど、活動内容は柔軟で多岐に亘ります。

また、地区の消防団が所有する腕用ポンプでの放水を消防団員と共に行ってみたり、大分市消防出初式に参加し、消防職団員と共に入場行進を行ったりと幼年期から消防団活動に興味を湧くような活動を行っています。

かた昼消防団に入団した子どもたちからは、「消防車に乗れて楽しかった。」「難しいことも多く大変だったけど、消防団員の時から褒められてうれしかった。将来は消防団に入りたい。」などの意見が寄せられています。

#### 4 未来像

かた昼消防団の取組を通じて、自治会や自主防災会、防災士、あるいは児童の保護者など地域を形成する様々な主体が参加す

る、例えば「炊出し訓練をみんなでやろう。」、例えば「自主防災会の訓練にかた昼消防団も来てもらって訓練しよう。」、例えば「公民館に皆で集まって防災のことを考えよう。」というような連携が習慣化して、地域の文化となれば、いつか強い地域防災の輪ができる発展性が、かた昼消防団にはあります。

また、かた昼消防団活動を長年続けた賀来地区では、非行も減少し、子どもの方から地区の大人たちに声をかけてくれるのが目立つようになったという報告書もあり、個人化が進み希薄化の傾向にある地縁を取り戻す効果も期待できます。

幼年期からかた昼消防団活動を通じて自助、共助の精神を学び、その過程において、地域が連携して、次世代に亘って安全、安心に暮らせる未来へ向けて、大分市消防団員とかた昼消防団員は手を携えて活動を続けていきます。